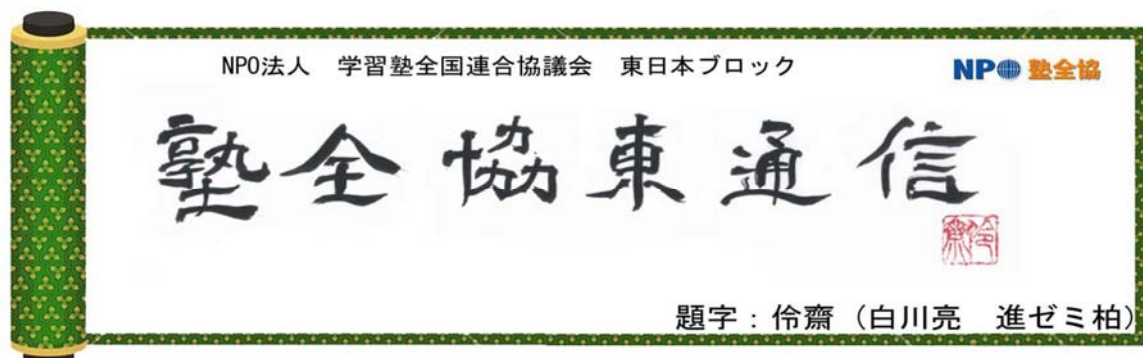


2018年6月



平成30年度 NPO 塾全協東日本ブロック総会

日時 2018年（平成30年）5月20日（日） 16:10～17:00

場所 アットビジネスセンター 東京駅 304号室

平成29年度の事業報告と会計報告が承認された後、新年度役員選挙が行われ、その後、新年度の事業報告と予算案が承認されました。

新年度の東日本ブロックの常任理事は以下の8名が選出されました。（敬称略、順不動）

沼田広慶（北辰館スクール）、内藤潤司（ソロモン総合学院）、稲葉秀雄（秀和教育センター）、山本太志（四季青舎柏）、星野重治（総合学習塾マインズ）、星野勝弘（オンフット進学会）、中山和行（中山塾）、中村基和（むさし野ゼミナール）



司会の中山和行東日本ブロック事務局長



内藤潤司東日本ブロック理事長の挨拶

平成 30 年度 中高入試情報交換会

日時 2018 年（平成 30 年）5 月 20 日（日） 17:30～19:30

場所 アットビジネスセンター 東京駅 302 号室

参加者 約 60 名

例年は東日本ブロック総会の後、「中高入試を考える会」、「私学と私塾の新年度情報交換会」が催されていましたが、生憎、去年から昼間の時間帯が私学のイベントとバッティングしてしまうため、今年度は夕方から 2 つの回を合体して、懇親会をしながら受験の専門家からの情報を聴くと言う形式のものになりました。



《2018 年度入試総括および 2019 年度入試の展望》

① 埼玉県立入試&埼玉県私立入試=岩佐桂一氏(岩佐教育研究所)



【概要】 まずは中学入試から。埼玉では 48 校の私立高校のうち 30 校が付属の中学校がある。去年までは定員を満たした学校は 7 校だけだったが、今年は 11 校に増えている。増えた理由は高校入試と連動していて、私学の方が大学入試改革に直結していて有利だということからだ。埼玉の中学入試は 1 月 10 日からなので県外の都県から試し受験者が集まり、栄東のように 5000 人以上の受験者があつまり、5000 人近くの合格者が出るという異常な現象が起きている。

高校入試では、埼玉の公私間の生徒の比率は 65 : 35 という協定になっているが県ではこれを見直そうとしている（公立を 800 名減らす）。今年は第一志望を公立から私立に鞍替えした生徒がふえている。県内も県外も含めて私立志望が増えている。一番の原因は東京の私学入学者の助成金が東京以外の高校でも受けられることにある。2 つめの原因は、今年の受験生は大学入試改革 1 期生で、大学進学のためには私学の方が良さそうだという考えが浸透してきたことである。

公立模擬テスト（公的テスト）において殆どの地区で偏差値が記載され、殆どの私学で偏差値による相談基準が中学校教員に開示された。中学校で偏差値があるき始めた。

② 千葉県立入試&千葉県私立入試=五十嵐裕明氏(株式会社進学研究会)



【概要】 先程、埼玉県では公立志望から私立に鞍替えした生徒が増えているという話がでたが、千葉県でも同じ事が起きている。ただ、千葉県の場合は助成金などお金の面ではなく、中身であるとか大学入試の面で動いている。助成金の関係で東京都から千葉県の私学に通う生徒のほうが千葉県の生徒より優遇されているというチグハグな現象

が起こっている。

千葉の大きな特色は、都市部と郡部の学校の差が大きいということ。地域によってはなかなか生徒が集められない学校が2次募集を行っているということがあがるが、最近は都市部の学校でも2次募集を行っているところが増えている。

来年度は制度面では大きな変更がないが、3年前東葛飾高校が中高一貫校になったため高校の募集が80名減ってしまい、そのためチャレンジ受験を控えようとする動きが出、そこで最も影響を受けるのが小金高校や県立柏高校辺りである。



今の前期後期の高校入試が2021年の入試から一本化される。その結果倍率が下がる。中堅校は不合格が減る。

③ 東京都立入試&東京都私立入試=穴澤嘉彦氏(株式会社創育新教育研究協会)



【概要】 今年の高校入試の状況変化は予想以上に大きかった。原因は東京都の授業料助成金の他に大学入試改革の影響が大きく、大学附属高校を中心に私立高校に向かった生徒が多かった。その結果、私立高校の単願受験する生徒が増えた。更に上位校と中堅より下位の学校、男子校と女子校、普通科と専門学科では真逆になるような入試結果になる学校が多かった。上位校では厳しい入試になった。逆に中堅より下位の学校は入試が緩やかになったところが多かった。特に都立高校

ではこの傾向が顕著であった。偏差値50が分岐点。男子は都立高校の昨年の大学入試の結果が良かったため都立に流れた生徒が多かった。逆に女子は同額付属校を中心に私立に流れた生徒が多かった。都立普通科の倍率は殆ど去年と同じだったが、専門学科では、商業は9校中6校、工業は15

校中 8 校が全入となった。

私立では東京都の授業料助成金制度の結果、偏差値 45 以下の受験生に大きな影響があった。それは私立高校に進学するつもりで都立高校に挑戦する生徒が増えたからだと思われる。偏差値 40 以下の生徒は私立の通信制高校に向かった生徒が増えた。

都立の 1 次不合格者の 9 割は私立の併願校に向かったが、その結果 2 次募集の倍率は 1 倍をわり、全日制 31 校が 433 人の 3 次募集を行った。この結果東京都の教育委員会は各都立高校の定員の検討に入った。

東京の私立高校は隣接県からの受験者が増えた。そして一般入試から推薦入試にシフトする生徒が増えた。

都立高校の入試では平成 31 年からスピーキングのテストを導入することになった。

3 氏の報告の後は校長先生や募集担当の先生方の挨拶でした。



↑西日本ブロックからも 4 人参加

今回の3人の講師の話の共通点は、私立高校志向が高まったことで、その原因は東京都の授業料助成金と大学入試改革であるということです。バブル崩壊以後、公立の改革などもあって公立人気>私立人気の状況がずっと続いて来ましたが、少し向きが変わって来たようです。

募集担当の先生の挨拶で、元NPO塾全協の会員であった増田先生が、「私の住所は下北沢成徳ですが、本籍地は塾全協です！」と言ってくれたのが印象的でした。

星野（重）先生、ご苦労様でした。

NPO 塾全協東日本ブロック 今後の主な予定(2018年度)

今後の主なイベント

5月27日（日）西日本ブロック総会・全国総会・全国常任理事会

会場：共学館義塾

9月17日（月祝）東京 進学相談会

9月24日（月祝）千葉 進学相談会

9月30日（日）埼玉 進学相談会

11月4日（日）東京 全国研修大会

編集 NPO塾全協東日本ブロック 事務局長 中山和行

〒350-0322埼玉県比企郡鳩山町今宿229番地

TEL 049-296-1111 FAX 049-296-1111 E-mail gyqbt650@ybb.ne.jp

NPO塾全協東日本ブロックHP <http://www.jzk-east.com>